

科目区分	統合分野	科目名	臨床看護の実践	対象学生	第3学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)内の14H+試験	学 期	第2学期
担当講師	藤川 幸子(臨床経験13年、教育経験24年)				
科目目標	1. 高度化する医療の進歩や変化に対応し、質の高い継続したケア 並びに 安全の保証を提供するための看護実践能力を習得する。				
授業概要	<p>第1回 臨床看護の実践学習の概要 (講義)</p> <p>第2回 複合看護技術の学習計画 (GW) 1) 技術の組み合わせと応用: 持続点滴静脈内注射中の患者の寝衣交換 2) 個別性と安全性・正確性・効率性: 援助計画の立案</p> <p>第3回 複合看護技術の実際 (演習) 1) 持続点滴静脈内注射中の患者の寝衣交換の実際 2) 個別性と安全性・正確性・効率性を踏まえた実践</p> <p>第4回 複数受け持ち患者のアセスメント (GW) (看護実践現場の多重課題演習: 4事例を用いた演習) 1) 4事例の対象理解と看護問題 2) 看護観察と援助の方向性の明確化</p> <p>第5回 時間的切迫下での多重課題の計画立案 (GW) 1) 複雑な状況における臨床判断、安全性・正確性・倫理性・効率性を考えた実施計画</p> <p>第6回 時間的切迫下での多重課題演習 (演習) 技術チェック 1) 突発的な事象への対応とその根拠 ① 正確な患者観察 ② 危険性を予測した判断・行動 ③ 時間切迫下での安全で安心できる援助の提供 2) その場の状況にあわせた優先度の判断とその根拠 3) その場の状況にあわせた、自己の能力の見極めと他者との調整</p> <p>第7回 振り返り・まとめ (GW)</p> <p>第8回 終了試験(1H)</p>				
看護師国家試験出題基準	<p>第4回～6回までのキーワード 多重課題の特徴と対応</p>				
授業の進め方	<p>統合は、分化したものが集まって全体となるように進化していくものである。分化した1つ1つの要素を とともに、分化したものをつなぐ要素(①患者中心の看護・患者の人権擁護・アドボカシーの概念 ②看護の役割・機能と責任 ③看護の専門性)やEBN(evidence based nursing)について探求する。 分化→統合→分化→統合のサイクルを繰り返し発展させていくことの意義を学ぶ。</p>				
履修のポイント・留意事項	<p>PBL(Problem Based Learning) 問題解決型授業形態で進行する。学生が主体的に学習し、課題の準備をする。臨地実習の実践をもとに、学生同士の意見交換を中心に、提示した課題について取り組む。 医療安全に関する内容は、共通基本技術Ⅰや実習オリエンテーションでの学びを基に展開する。 複合技術演習は、基礎看護技術(清潔・寝衣交換、点滴静脈内注射など)を基に展開する。</p>				
テキスト	<p>系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メジカルフレンド社</p>				
評価方法・配点	<p>終了試験(60%)、レポート課題(15%)、技術演習評価(25%)によって総合的に評価する。</p>				